

## 第16回 全国福祉村サミット 2016 豊橋宣言

団塊の世代が85歳以上且つ「団塊ジュニア」世代が高齢者に近づく2035年において、日本に住むすべての人が安心して幸せな生活を送れる社会を実現するために、全国福祉村サミットは、高齢者/障害児者/児童等の事業を複合的に実施する大規模社会福祉法人の集まりとして、2016年に豊橋市で開催されたサミット会議での議論を踏まえ、2035年福祉の未来を見据えて私たちの決意と取組をここに宣言します。

### 1) 福祉テクノロジー・イノベーション・プラットフォーム (WTIP\*)の創設

次世代の福祉分野における革新的な科学技術開発のための連携体制(福祉テクノロジー・イノベーション・プラットフォーム、WTIP)を創設し、IoTやAI、ロボティクスといった科学技術の進化を加速させ、サービスの質の向上や職員の業務の効率化、身体的負担の軽減を推進する。具体的には、現場における業務遂行上のニーズを的確に把握し、課題解決にむけてロボティクス企業やAI企業とのマッチングを進めるなかで、全国福祉村サミットに参加する法人同士で課題共有、情報共有を進めることによって、効果的且つ効率的に課題解決を図っていく。

( \* Welfare Technology Innovation Platformの略)

### 2) 複合的な共生型サービスの提供

地域包括ケアにおける地域共生の概念を実現するべく、高齢者・障害者・子どもなど幅広い人々に対するサービスを複合的に提供する。その一つの手段として、1施設1サービスという概念ではなく、高齢者デイサービスと学童保育などの子育て支援を同じ場所で複合的に提供する「共生型サービス」にも積極的に取り組み、全国福祉村サミット参加法人で事例を共有する。いわば「大規模多機能」「中規模多機能」サービスとして、ワンストップサービスを実現するべく行政機関とも連携しながら、地域と一緒に全人的地域包括ケアの実現へ向かう。

### 3) 全世代の健康支援と認知症ケアへの取り組み

自助、互助がこれまで以上に強調され、医療・介護保険の見直しが度々議論される中では、高齢者や障害児者ができる限り長く健康で幸せな生活を送れるようにすることが重要となってくる。このため、健康づくりやスポーツ活動、地域で暮らす方々の食生活の向上などに多角的に取り組むとともに、高齢障害者のケア体制の構築にも努める。

また今後爆発的に増えると考えられる認知症に対しても、予防とケアについて全国福祉村サミット参加法人で連携して取り組み、情報を共有する。

### 4) 福祉人材の確保に向けた取り組み

労働力人口の減少に伴う福祉人材の不足が見込まれている中では、国による処遇改善の取り組みだけではなく、事業者においても、職場環境の改善や業務の効率化、ロボティクスなど科学技術の活用による負担の軽減などに取り組む、いわゆる「3K」職場のイメージを解消していくことが不可欠である。全国福祉村サミット参加法人は相互に連携し、1)のテクノロジーに関する取り組みと併せ、これらを積極的に推進する。

#### 第16回全国福祉村サミット

#### シンポジウム「2035年に向けて、福祉の未来を考える」

#### シンポジスト

- 廣江 晃 氏／社会福祉法人 こうほうえん 副理事長
- 竹之内隆明 氏／社会福祉法人 長岡福祉協会 経営企画部長
- 小幡 篤志 氏／社会福祉法人 旭川荘 企画広報室長

#### 提言者及びシンポジスト

- 山本 左近 氏／社会福祉法人 さわらび会 統括本部長